

第41回

発表：宮本友弘 准教授

申込不要×当日参加歓迎
お気軽にご参加下さい。

高度教養教育・学生支援機構 入試開発室

専門： 教育心理学

児童期における学力の発達的变化と 規定要因に関する縦断的研究

Longitudinal study on developmental changes and determinant factors of
academic achievement in childhood.

5月10日（水） 12:10～12:50

（40分間：発表25分、質疑応答15分）

※昼休みに持参弁当を食べながら

東北大学川内北キャンパス
川北合同研究棟1階 101ラウンジ

正午 P D (Professional Development) 会

小学校6年間を通し、児童の認知と言語には大きな発達的变化が生じ、学力に影響を及ぼすことが知られています。そのため、学力の形成は自生的な発達段階上の課題となりますが、そのプロセスやメカニズムは十分には解明されていません。そこで、筆者は、ある小学校において全学年で毎年実施されている標準学力検査及び知能検査の縦断的データと、質問紙調査から、児童期の学力の発達的变化と規定要因について心理学的な観点から研究しています。今回は、その結果の一部について報告します。研究対象は大学生ではありませんが、生涯発達の観点から、高等教育の一助になれば幸いです。

高度教養教育・学生支援機構
Institute for Excellence in Higher Education

問い合わせ先：
高度教養教育・学生支援機構
学際融合教育推進センター 藤本敏彦
E-mail: tfujimoto@m.tohoku.ac.jp Tel: 795-7769